



## 2 身に付けたい力を明確にした単元構想

### (1) 目的とする言語活動を位置付けた課題解決的な単元構想

国語科の授業における学習過程を児童の主体的・協働的な思考や判断が十分に生かされた課題解決の過程になるよう工夫したい。そのためには、図1に示すように、単元に設定された言語活動を実現するために、既習の知識・技能を活用しながら思考・判断・表現し、課題解決することを通して、読むこと的能力（指導事項）を身に付けていく単元構想を提案したい。

表現の内容や解釈について協働的に学習する必然性を生じさせるためには、よりよい表現や解釈を求める単元課題を工夫することも大切である。

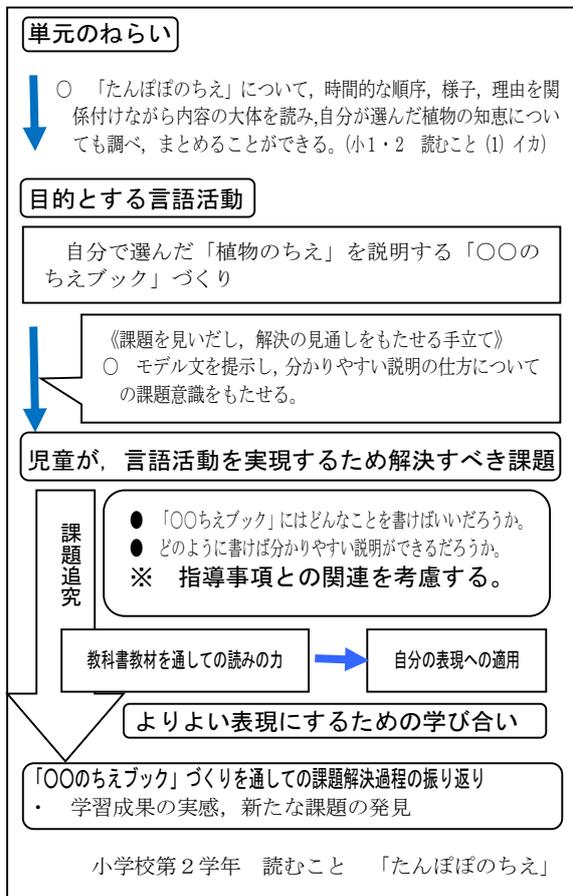


図1 目的とする言語活動を位置付けた課題解決的な単元構想

### (2) 言語活動を通しての思考・判断・表現の評価

「読むこと」の学習において、目的とする言語活動を実現することを通して、どのような読むこと的能力（指導事項）を身に付けるのかを明確にしておかなければならない。そのためには、児童の言語活動をどのように評価するのかを具体化しておく必要がある。そこで、「読む能力」の評価規準を基に、目標の達成の度合いを判断するための目安として「判断の要素」を設定するとともに、それを具体化した尺度として「判断基準」を設定することを提案したい。「判断基準」を設定することにより適切な指導と的確な評価ができる。「判断の要素」及び「判断基準」の設定例を表1に示す。

表1 「判断基準」設定の具体例

評価規準（「思考・判断・表現」）
○ 読む能力 「たんぼぼのちえ」について、時間的な順序を表す言葉、様子、理由を関係付けながら内容の大体を読み、自分が選んだ「植物のちえ」について時間的な順序、様子、理由を関係付けながら説明している。 <b>（読むこと イ）</b>
思考、判断に基づく表現内容（評価の対象）
○ 自分で選んだ「植物のちえ」を説明する「〇〇のちえブック」（ワークシート）
判断の要素
ア 時間的な順序 （時間的な順序を表す言葉）
イ 様子と理由の因果関係 （様子や理由を表す言葉）
判断基準B（おおむね満足できる状況）
ア 時間を表す言葉を見付け、様子（～のです。）と理由（～からです。）を区別しながら、「たんぼぼのちえ」の内容の大体を読んでいる。 時間を表す言葉を「ちえブック」にまとめている。
イ 「問い」と「答え」の関連を手掛かりにしながら「たんぼぼのちえ」の内容の大体を読んでいる。 植物が、ちえを働かせる様子と、その理由を「ちえブック」にまとめている。
判断基準A（新たな視点を加えたもの）
○ 複数の「ちえ」を説明するために、段落のまとまりを考えながら（読んでいる）書いている。 （段落構成についての気付き）

(3) 具体的な指導計画の例（第2学年 読むこと 教材「たんぼぼのちえ」）

ア 単元名「じゅんじょに気をつけて読もう」（全10時間）

イ 単元の目標

たんぼぼの知恵について、時間的な順序を表す言葉、様子、理由を関係付けながら内容の大体を読み、自分が選んだ植物の知恵について調べたことを分かりやすく説明することができる。（C読むこと イ）

過程	読活動	主な学習活動	児童が見いだす課題 (児童の課題意識)	教師の指導・評価 ※ 重点評価項目
<p style="writing-mode: vertical-rl;">つかむ・見通す</p> <p style="writing-mode: vertical-rl;">調べる・深める</p> <p style="writing-mode: vertical-rl;">生かす・振り返る</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl;">「読むこと」 エ 科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書く言語活動の「〇〇ちえブック」(説明文)</p>	<p>1 司書の「植物のちえ」のブックトークを聞き、気付いたことを話し合い、単元の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分の選んだ植物のちえを分かりやすく説明した「〇〇のちえブック」を作ろう。</p> </div> <p>2 単元の学習課題の解決へ向けて課題を出し合い、言語活動を実現するための学習計画を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>3～6「たんぼぼのちえ」を読み、書かれた内容や説明の仕方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 花がさいて2, 3日たったときのちえとその理由</li> <li>○ 花がすっかりかれたときのちえとその理由</li> <li>○ わた毛ができるころのちえとその理由</li> <li>○ よく晴れて風のある日と雨ふりの日のちえとその理由</li> </ul> <p>7 たんぼぼの「ほかのちえ」(自作資料)をどんな順序で書けばいいかを考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 5px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">活用</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">習得</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>8 「〇〇のちえブック」づくりに必要な情報を収集する。</p> <p>9 時間的な順序、様子と理由に気をつけて「〇〇ちえブック」を作る。</p> </div> <p>10 完成した「ちえブック」を読み合い、よりよい説明について話し合ったり、お互いの表現のよさを発見したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の振り返り</li> <li>・ 学習のまとめ</li> </ul> </div>	<p>植物にはいろんな知恵があるんだな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「〇〇のちえブック」にはどんなことを書くのかな。どのように書けば分かりやすく説明できるかな。</p> </div> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-align: center;">自分の選んだ植物のちえを友達に分かりやすく説明するために</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>たんぼぼにはどんなちえがあるのかな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「たんぼぼのちえ」の説明はどうして分かりやすいのかな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「〇〇のちえブック」はどのような順序で書けば分かりやすく説明できるかな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分が選んだ植物には、どんなちえがあるのかな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>調べたちえを分かりやすくつたえるためにどんな工夫をしたらいいかな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>単元の学習を通して、自分はどんなことができるようになったのかな。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 司書のブックトークにより、植物には様々な知恵があることを知り、「〇〇のちえブック」を用いた説明に対する興味・関心をもつことができるようにする。</li> <li>○ 教師が提示した2種類の「ちえブック」を比較することで、どのように書けば分かりやすい説明になるかを考え、単元を貫く課題を見いだすことができるようにする。</li> <li>○ 題材とする植物を選ばせ、並行読書のコーナーを設け、どんな知恵があるのかいつでも調べられるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>※ 「〇〇のちえブック」づくりに向けての自分なりの課題や解決の見通しをもち、学習に取り組もうとしている。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「『ちえブック』でどのように説明すればいいか。」という課題意識に基づき、教材文「たんぼぼのちえ」には、どのようなちえがどのように説明されているかという課題を解決する読みを展開させる。</li> <li>○ 時間的な順序を表す言葉、たんぼぼの様子と理由に着目させながら読み進めさせる。</li> <li>○ 挿絵と本文を結び付けて読み進めることで、たんぼぼの様子をはっきりとイメージできるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>※ 言葉や文、挿絵を手掛かりにし、たんぼぼのちえやその理由について理解し、時間的順序の構成を考えながら内容の大体を読んでいる。 (発言、ノート)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>※ 時間的順序を表す言葉や理由を表す言葉を使って、自分が選んだ植物のちえを植物の様子とその理由を呼応させながら説明している。 (発言、植物のちえブック)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 聞き手(読み手)にとっての植物のちえや理由のよりよい説明の仕方について話し合いをさせる。</li> <li>○ お互いの書き方のよいところを伝えたり、これまでの学習をノートに書いたりすることで、本単元で身に付けた力を実感できるようにする。</li> </ul>

協働的な学習の想定を表2のように示す。

### 3 課題解決に向けた協働的な学習

#### (1) 協働的な学習の意義

これまでも多くの実践で、ペア学習やグループ学習などが取り組まれてきており、児童が協働的に学習する場が設定されてきている。しかし、協働的な学習を通して個々の思考が深まったり、広がったりしていない実践も散見される。協働的な学習の意義を再確認し、協働的な学習の場が形骸化しないよう留意したい。

国語科における協働的な学習では、児童が自他の解釈や表現の共通点や相違点について相互交流（対話）しながらその価値やよさや不十分さを検討することを通して、新たな言葉の学びを創り出していくことに意義がある。

#### (2) 児童の課題解決につながる協働的な学習のポイント

協働的な課題解決を実現するために以下の3ポイントを大切に交流活動を設定したい。

<p><b>【協働的な学習を創るポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題追究の目的や視点を明確にした双方向の交流活動の設定</li> <li>○ 相手の考えを適切に理解させる手立ての具体化</li> <li>○ 交流後の自己の振り返り（思考の深化、付加・修正）の場の設定</li> </ul>
---

教師は、このような協働的な学習を実現させるために、「どのような目的で交流させるか」、「どのような視点で思考させるか」、「その結果、児童のどのような姿が期待されるのか」を明確に（想定）しておく必要がある。

前ページの指導計画例（※第7時）での

表2 「学び合い」想定シート

第2学年国語科「たんぼのちえ」本時における「学び合い」の想定	
「学び合い」の目的	
たんぼの「ほかのちえ」（※自作資料）について、「どんな順序で書けば分かりやすい説明になるか」という課題を解決する。 ※ みんなが納得する説明の順序を見付ける。（その理由も）	
「学び合い」で期待される効用	
強固	自分が考えたカードの並べ方が友達のと一致していた。友達の理由も聞いて、自分の考えがより確かなものになった。
修正	自分が考えたカードの並べ方が友達と違った。友達の理由を聞いて、自分の考えの不十分なところに気付いたので、考えを修正した。
付加	自分の考えと友達の考えは一致していた。でも理由を聞いて、自分が気付かなかった根拠に気が付き、考えが広がった。
「学び合い」の手順（※思考活動）	
① 並べたカードを読み合う。（比較）	<p><b>【形態】</b> ペア</p> <p><b>【活用するツール】</b> ノート、短冊カード</p>
② カードを「時間を表す言葉」、「様子を表す文」、「理由の文」に分ける。 （整理・分類）	
③ 根拠と理由を話し合う。（関係付け）	
④ 疑問に思うことを質問する。	
⑤ 自分の考えを見つめ直す。	
「学び合い」におけるめざす児童の思考の想定	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「たんぼのちえ」は、それぞれの説明が「時間を表す言葉→様子→理由」の順で書かれていた。だから、「ほかのちえ」も同じ順に説明すると分かりやすい。 （説明の順序）</li> <li>○ 「たんぼのちえ」で様子の文は、「～ます。」、わけの文は、「それは～のです。」「それは～からです。」で書かれていた。だから、～の文は様子の文、～の文はわけの文と考える。 （文末表現）</li> <li>○ 複数の「植物のちえ」を説明するときには、段落のまとまりを考えながら説明すると分かりやすい。※A基準</li> </ul>	

（鹿児島市立山下小学校の実践から）

このように協働的な学習を通して期待する児童の思考を想定することにより、教師は児童の課題解決につながる助言や相互交流を促すコーディネートを具体的に行うことが可能になる。

実生活に生きて働く国語の能力を身に付ける主体的・協働的に学ぶ「読むこと」の授業改善が一層推進されることを期待したい。

—引用・参考文献—

- 寺井正憲・成家亘宏編集『活用力を育てる授業～いま身に付けさせたい「言葉の力」と指導の実際～』平成20年、図書文化
- 鹿児島県総合教育センター『指導資料1739号（国語第124号）』平成24年10月
- 鹿児島市立山下小学校『問いをもち、主体的に学ぶ子供を育てる授業づくりⅡ』平成27年11月

（教科教育研修課）

